

オートバックスセブン
株主通信

Vol.12

第59期

Show Get-key

しょうげき～衝撃～

第1四半期 事業報告書 2005年4月1日から2005年6月30日まで

オートバックスグループの大義

「車好きのユートピアをつくる」 「世界中のドライバーを車好きに変える」

二つの大義を実現するため、私たちオートバックスグループは、
カーライフスタイルの創造者として行動します。

オートバックスグループ創業の原点、それは「お客さまに車の楽しさをもつと伝えたい、お客さまのカーライフをもっと豊かにしたい」という熱い思いです。オートバックスブランド誕生から三十余年間が経ちましたが、業界のリーディングカンパニーとしてオートバックスグループ500店舗以上を有する現在でも、この気持ちは決して変わりません。

車はただの乗り物ではなく、私たちの人生を豊かに変え、生活を楽しくしてくれるパートナーであるということを伝えたい。車が秘めている楽しさのできるだけ多くの方と分かち合い、世界中の人に車を好きになってもらいたい。そして車のある生活をもっともっと楽しんでワクワクしてほしいのです。

私たちはこれからも、人と車が調和した社会とより充実したカーライフを提案し続けることで、お客さまと車の楽しさや走る喜びを共有するとともに、お客さまの満足とオートバックスグループの成長のために挑戦を続けます。



目次

- 1 オートバックスグループの大義
- 2 ごあいさつ
- 3 AUTOBACS GROUP Business Pick Up
車検・整備
- 5 Store Format Strategy - 店舗展開
オートバックス
- 7 トピックス
- 8 ARTA プロジェクト
SUPER GT 第3戦
セバンスーキット (マレーシア)
- 9 財務報告
- 13 株式情報
- 14 会社情報

見直しに関する注意事項

この株主通信に記載してある戦略や今後の事業展開など歴史的事実に基づいていない部分は、現在入手可能な情報から得られた経営者の判断に基づいたものであり、実際はさまざまなリスク要因の変化により異なる結果となることがあります。

連結会計処理の変更

当第1四半期連結会計期間より店舗の賃貸による不動産収入について、営業外収益から「売上高」に計上する方法へ変更し、対応する原価を販売費及び一般管理費と営業外費用から「売上原価」に計上する方法へ変更しました。また営業外収益の「情報機器賃貸料」に対応する費用を販売費及び一般管理費から営業外費用へ変更し、金融子会社におけるリース料収入を営業外収益から「売上高」に計上する方法へ、対応する原価を営業外収益の控除項目から「売上原価」に計上する方法へそれぞれ変更しました。この結果、従来と同一の方法による場合と比較して、売上高は977百万円、売上総利益は346百万円、営業利益は819百万円増加しています。なお経常利益に与える影響はありません。

当第1四半期連結会計期間より、海外子会社の決算日について、従来連結決算日と海外子会社の決算日の相違が3ヵ月を超えないことから、当該海外子会社の決算日現在の財務諸表を使用し、重要性がある場合は連結上必要な調整を行っていましたが、正規の決算に準ずる合理的な手続による決算(仮決算)に変更しました。この結果、従来と同一の方法による場合と比較して、売上高は1,025百万円増加し、経常利益および四半期純利益は79百万円減少しています。



ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

オートバックス株主通信「Show Get-key」のVol. 12をお届けします。今号では、第59期第1四半期の財務状況をご報告するとともに、弊社の戦略や事業内容についての理解を深めていただくための記事を掲載しています。中期経営計画でも重点課題の一つである「車検・整備」については、担当しているオフィサーが、日々現場と接する中で得た実感をまじえて近況ご報告します。

当第1四半期のご報告

当四半期中は、低迷が続いていた国内の景気に明るい兆しが見え始めたこともあり、カー用品市場も回復基調を呈しました*。オートバックスグループにおきましても、タイヤ、カーナビゲーション、ETC車載器などが好調に推移し、卸売部門、小売部門ともに売上を伸ばすことができました。この結果、当第1四半期の売上高は59,656百万円(前年同期比5.2%増)、営業利益は2,686百万円(同114.3%増)、経常利益は3,841百万円(同75.2%増)、四半期純利益は2,215百万円(同168.1%増)となりました。なお当第1四半期連結会計期間より、会計処理の方法を変更しています。詳細については1ページの「連結会計処理の変更」をご覧ください。

再成長への挑戦

オートバックスグループでは、縮小傾向にあるカー用品のアフターマーケットで継続的にシェアを上げ、またカー用品以外の事業領域を拡大することによって再び力強い成長軌道を描くことを目的に、「中期経営計画」を策定・実施しています。その柱となっているのが、エリア内での店舗配置を整備し、収益力の高い店舗網をつくりあげる「エリアドミナント戦略」、お客さまのカーライフにおけるあらゆるニーズに応えるための「トータルカーライフ事業戦略」、新たな市場の開拓を求める



「海外事業戦略」です。さらに当経営計画を円滑、かつ効果的に推進するための「経営基盤整備」も行っており、全社一丸となった取り組みを本格化させています。

私は「中期経営計画」を策定・実施していく過程において、弊社の役職員ならびに従業員が、カー用品市場の縮小という事態に対する危機感や、再成長へ挑戦する意気込みを共有し、非常に強いモチベーションを持って日々行動してくれているように感じています。また実際に店舗を訪れますと、店長をはじめ店員・ピットの作業員一人一人がオートバックスグループの一員としての誇りを持ち、それぞれの職能を磨きながら、お客さまに満足していただける店づくりに努力している姿に感銘を受けます。

このように、現場の活気ある様子は、私の再成長への希望を確信に変えてくれました。株主の皆さまには、進化を続けながら成長していくオートバックスグループへの、変わらぬご厚情とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2005年9月

住野 公一

住野 公一
代表取締役 CEO

*自動車用品小売業協会(APARA)「平成17年4月~平成17年6月売上累計資料」

AUTOBACS GROUP Business Pick Up

車検・整備



AUTOBACS GROUP Business Pick Upでは、オートバックスグループのさまざまなビジネス展開を紹介していきます。今回は、中期経営計画の中でも重要な役割を果たしている「車検・整備」を取り上げます。

オフィサー
車検・整備整備担当
釜田尚文



Q.1 オートバックスグループにおける「車検・整備」の位置付けを教えてください

A.1 我々をご存知の通り、カー用品販売のリーディングカンパニーとして成長してきました。しかしカー用品市場(アフターマーケット)は縮小傾向にあり、業界内での競争がますます激化しています。オートバックスグループは、従来のカー用品販売の枠にとらわれずにお客さまのカーライフを多面的にサポートするトータルカーライフ事業戦略を推進し、そのような状況下においても成長を続けています。なかでも自動車関連の総合的な市場でのシェア拡大を実現する「車検・整備」は、カー用品販売との相乗効果もあり、同戦略の大きな柱となっているのです。

Q.2 最近の具体的な施策はどのようなものですか

A.2 オートバックスグループの店舗では、自動車の分解・整備ができる認証工場資格や、国に代わって車検の検査業務を行うことができる指定工場資格の取得に積極的に取り組んでいます。また2004年からは、「車検・整備」の拡大に伴うピット不足を補うために、店舗の近隣に設置する独立型の車検・整備と板金・塗装専門館「テクノキューブ」の展開をスタートしました。

テレビCMや屋外看板などプロモーション活動の効果もあり、オートバックスグループの車検・整備の認



知度が上がり売上にも徐々に顕われています。また車検をご利用のお客さまが、同時にタイヤやバッテリー、カーオーディオなどもご購入になることが増えており、「カー用品販売」との相乗効果も顕著に現れてきました。

Q.3 オートバックスグループの「車検・整備」の強みは何ですか

A.3 強みは、何といても安心のピット技術力と、豊富な商品ラインナップです。車検・整備と同時にオイル、バッテリーなどの消耗品はもちろん、オーディオ、カスタムパーツなどのアクセサリも選んで取り付けることができるため、お客さまにカー用品をご購入いただく絶好の機会になっています。

車検・整備をきっかけに、既存のお客さまにカー用品を手にとっていただく機会が増えたことはもちろん、カー用品販売を中心とした従来の店舗にはご来店いただけなかったお客さまにも新規にご来店いただけるようになって、新たな顧客層の開拓につながっています。

実際に車検・整備や板金・塗装をご利用になったお客さまからは、週末も車検の受付・実施が可能なことや、板金の作業内容と料金を明瞭に示す先進の見積システム、安心・親切・丁寧な対応で好評をいただいております。定期的にご来店いただくお客さまも増えています。



Q.4 今後の取り組みと目標について教えてください

A.4 現在オートバックスグループが展開する約500店舗中、約420店舗で認証工場資格を取得しており、うち約190店舗が指定工場資格を有しています。将来的には全店で認証工場資格を取得することを目指しており、車輛メンテナンスサービスを提供する施設を増やし、さらに安心の技術力によりお客さまからの信頼度を高め、「車検・整備といえばオートバックス」と言ってもらえるように努めていきます。



また車検・整備というと専門的な知識が必要なため、カー用品店にはあまり馴染みがなく不安に思っているお客さまが多いと思います。だからこそ作業内容や整備料金などを明確にし、お客さまに安心してご利用いただけるサービスを提供しなくてはなりません。そのためにはお客さまの声に耳を傾けることが重要です。私自身も実際に全国の店舗を回り、お客さまと直に接し、店舗スタッフとのコミュニケーションも緊密にとり、そこで得た知識や経験を今後の事業戦略に活かしていきたいと考えています。



Store Format Strategy - 店舗展開

オートボックス



信頼と安心のブランド「オートボックス」

オートボックスグループは現在、一定のエリア内において複数の異なる業態を組み合わせる店舗戦略(=エリアドミナント戦略)を推進し、さまざまな価値観やニーズを持つお客さまにきめ細かく対応できる体制づくりに努めています。カバーする商圈やターゲット顧客に応じ、店舗規模や品揃えを

明確に差別化することで、店舗間・業態間の相乗効果を高め、シェア拡大を目指しています。なかでも400店を超える店舗網を持つ「オートボックス」は、親切・丁寧な対応で信頼できるカー用品店として、地域の皆さまに頻繁にご利用いただいています。

<国内主力業態の店舗数> (2005年6月末現在)

「オートボックス」	406
「オートハローズ」	15
「スーパーオートボックス」	61
Type I	6
Type II	55
オートボックス走り屋天国セコハン市場	26



オートボックスグループが展開するさまざまな業態の中で、お客さまの日常的カーライフに最も身近な存在となっているのが「オートボックス」です。グループの主な業態を紹介するこのシリーズでは今後、「スーパーオートボックス (Type I / Type II)」、「オートボックス走り屋天国セコハン市場」などを紹介していく予定です。

地域に密着したカー用品店として

お手ごろ感を求めるお客さまを意識した品揃えとサービスを充実させた、地域密着型のカー用品総合量販専門店が「オートボックス」です。より大規模な店舗展開と品揃えでカーマニアのカスタマイズニーズなどにも対応できる「スーパーオートボックス」に比べ店舗規模は小さいものの、一般のドライバーやカーライフ初心者のお客さまが、エントリーショップ

として気軽に来店できる店舗を目指しています。カー用品の取り付け・交換や車検・整備などもワンストップで提供し、お客さまの日常的カーライフをサポートする総合的な対応で好評をいただいています。また北海道では、エリア限定のカーライフストア「オートハロース」を「オートボックス」とともに展開しています。

<主力業態の特徴比較>

	「オートボックス」	「オートハロース」	「スーパーオートボックス Type I」	「スーパーオートボックス Type II」
コンセプト	カー用品総合量販専門店 (地域密着型店舗)	カー用品専門店 (北海道地域密着型店舗)	エンターテインメント型トータルカーライフ専門店 (大商圏型旗艦店舗)	カーライフ創造型専門店 (エリアドミナント中核店舗)
ターゲット	一般ドライバー	老若男女を問わない ノンマニア	カスタマイズ好きこだわり派ドライバー	品揃えとサービスを追及するドライバー
商圏	半径5キロ圏内	半径3キロ圏内	半径20キロ圏内	半径10キロ圏内
基準売場面積	150～300坪	150坪	500坪以上	300坪以上
ビット数	7～13台	5台	40台以上	15台以上
駐車台数	50～80台	40台	200台以上	81台以上

「オートボックス」を核とした店舗最適配置を推進

オートボックスグループでは、エリア特性に合わせた店舗の最適配置により、エリア内シェアの最大化を目指しています。具体的には、「スーパーオートボックス」をエリア内の旗艦店舗としながら、その周辺に「オートボックス」や「オートボックス走り屋天国セコハン市場」などを複数組み合わせることを考えています。そのため「オートボックス」については、今後も新規

出店を継続しつつ、既存店の一部については「スーパーオートボックス」などへの業態転換を積極的に進めていく計画です。これにより「オートボックス」の店舗数は漸減傾向にあります。これにより「オートボックス」の店舗数は漸減傾向にあります。これにより「オートボックス」の店舗数は漸減傾向にあります。これにより「オートボックス」の店舗数は漸減傾向にあります。これにより「オートボックス」の店舗数は漸減傾向にあります。



トピックス

2005年 6月

「ETCカード即時自動発行サービス」を開始



日本道路公団などの有料道路事業者は、ETC※1普及促進のために、各種助成制度を実施しています。最近ではその成果も表れ、全国の高速道路や主要有料道路などでのETCの平均利用率は45.1%（2005年7月29日から8月4日の平均）※2にまで達しています。

オートバックスグループではお客さまの利便性向上のため、日本初となる専用自動発行端末でETCカードを即時発行するサービスを開始しました。この

サービスでは端末をお客さま自らが操作し、カードの申し込みから受け取りまでを約3～30分程度とスピーディーに行うことができます。オートバックスグループはETCの将来性を見こして約2年前からこのような端末の導入を検討してきましたがこの度、他社に先駆け導入にこぎつけました。今後はグループ150店舗への導入を予定しています。

オートバックスグループはETC車載器の販売開始から4年4ヵ月で累計販売台数100万台を達成（2005年7月）しました。

※1 車が一旦停止することなく、車載器と料金所に設置されたアンテナの間で無線通信を用いて、自動的に料金の支払いを行うシステム。

※2 国土交通省道路局（<http://www.mlit.go.jp/road/>）「ETCの普及・利用状況（速報）」による。

2005年 6月

「monoCRAFT Pick Up Cube」誕生

海や山で手軽に乗れるピックアップとして6月に発表（7月1日発売）した「monoCRAFT※ Pick Up Cube」は、アウトドアでの使い勝手と楽しさをコンセプトに開発されたカスタマイズカーです。

2002年10月から2005年5月まで日産自動車株式会社から発売されていたCubeを、サーフボードやマウンテンバイクなどの運搬に便利な荷台付きのピックアップタイプに改造。“車の多彩な楽しみ方を提案したい”というオートバックスグループの思いから生まれた「monoCRAFT Pick Up Cube」は、その個性的なデザインで2005年東京オートサロンのコンパクトカー部門で優秀賞を受賞しました。



※ monoCRAFTシリーズ：“乗る楽しさ、眺める楽しさをテーマに、個性的な車をより多くの方に楽しんでもらいたい”という思いから誕生したオートバックスグループのカスタムカーブランド。全国の「オートバックスC@RS-SHOW」で販売。

4月

『オートバックスさばえ店』をオープン（福井県）

『オートバックス走り屋天国セコハン市場姫路店』をオープン（兵庫県）

5月

オリジナル自転車3機種14タイプ「SKUBY」「HUMMER」「MONTAGUE」の販売を開始

6月

『オートバックステクノキューブ鹿屋店』を開設（鹿児島県）

『スーパーオートバックス富士』をオープン（静岡県）

『オートバックステクノキューブ宗像店』を開設（福岡県）

『オートバックス高砂店』を移転オープン（兵庫県）

オートバックスグループ中期経営計画を発表



ARTA

プロジェクト SUPER GT 第3戦セパンサーキット(マレーシア)

オートバックスグループは、たくさんの方々にレースの興奮や、車の多彩な楽しみ方・楽しさをお伝えし、車生活をもっと楽しんでいただこうと、モータースポーツの振興活動を中心とするARTA (Autobacs Racing Team Aguri) プロジェクトを展開しています。サーキットで“AUTOBACS”の文字がすっかり定着した現在、トータルカーライフサポート業へと進化し続けるオートバックスグループのイメージやブランドが向上するという好循環が実現しつつあります。



GT300 クラスでマレーシアの熱戦を制覇

6月26日、SUPER GT^{※1}シリーズ第3戦は、マレーシアのセパンサーキットに舞台を移し、地元モータースポーツファンの熱気と興奮に包まれて開催されました。厳しい暑さと海外でのレースという過酷な条件にも関わらず、GT300クラスに出場したARTA GaraiyaとGT500クラスのNSXは、共に予選を1位で通過しポールポジションを獲得しました。



GT300クラスでは、ARTA Garaiyaが決勝でも他を圧倒する見事な走りを見せ、今季初優勝のチェッカーフラッグを受けました。昨シーズンは、GT300クラスで2勝を挙げ、シリーズランキング2位獲得と健闘、今シーズンも滑り出し好調でシリーズ優勝への期待が高まっています。今回の優勝で、ポイントランキングでもトップに立ち、昨年惜しくも逃したシリーズチャンピオン獲得に向けて大きく前進しています。一方GT500クラスを走ったNSXは、終盤まで1位をキープしていたものの、残り10周で2位に転落、その後もデッドヒートを繰り広げましたが、惜しくも2位でのゴールとなりました。

オートバックスグループのブランドイメージ向上

セパン戦では、日本の大手カー雑誌の記者を招待しての「メディアツアー」を実施しました。メディアツアーは、ARTAの取り組みを、多くの読者の目に触れる誌面に掲載してもらうことを目的としています。監督や選手、オートバックスセブンの担当者に対して行われた今回の取材では、この日のレースについてももちろん、ARTAの活動目的・内容とドライバー育成について、また活動への思い入れや意気込みについて、それぞれが熱く語りました。

オートバックスグループでは、SUPER GTをはじめとするメジャーなレースへの参戦だけでなく、ARTAチャレンジ^{※2}

による若手ドライバーの育成活動、店頭でのイベント開催やグッズ販売などのプロモーション活動を通じて、多くのお客さまにさまざまな車の楽しみ方や楽しさをお伝えし、オートバックスグループの認知度とブランドイメージを向上する効果を期待しています。



※1 「SUPER GT」(旧「全日本GT選手権」): 日本で最大の観客動員を誇る人気No. 1のレース。最大出力約500馬力のGT500と、最大出力約300馬力のGT300の2つのクラスで構成。今年からインターナショナルシリーズへと発展し、レース呼称も変更されました。

※2 「ARTAチャレンジ」: 日本のモータースポーツ界の将来を担い、世界に通用する選手の育成を目指すARTAが、モータースポーツの底辺を広げ、トップドライバーを志す若者たちにチャンスと活躍の場を提供するために2004年よりスタートしたカートレースのシリーズ。

ARTAのウェブサイトでは、レースやモータースポーツの情報に加え、走行会や店舗でのイベント情報などもご覧いただけます。
<http://www.autobacs.com/motorsports/>



財務報告

連結貸借対照表

単位：百万円

第58期 第1四半期
(平成16年6月30日現在)

第59期 第1四半期
(平成17年6月30日現在)

第58期
(平成17年3月31日現在)

(資産の部)			
流動資産	95,603	110,206	104,214
現金及び預金	38,170	38,679	51,306
受取手形及び売掛金	16,881	17,358	12,919
有価証券	3,747	18,115	5,124
たな卸資産	20,298	19,389	17,247
繰延税金資産	2,271	2,467	1,906
未収入金	11,803	11,706	14,133
その他	3,330	3,205	2,285
貸倒引当金	△899	△715	△710
固定資産	109,611	97,626	99,010
有形固定資産	59,572	50,297	51,399
建物及び構築物	26,650	23,189	23,917
土地	25,449	20,927	21,070
その他	7,471	6,180	6,411
無形固定資産	3,223	4,125	4,253
投資その他の資産	46,815	43,203	43,357
投資有価証券	13,928	13,133	12,883
長期貸付金及び長期差入保証金	28,277	26,089	26,307
繰延税金資産	4,708	4,845	4,802
その他	1,984	1,681	1,880
貸倒引当金	△2,081	△2,548	△2,516
資産合計	205,214	207,833	203,224
(負債の部)			
流動負債	35,516	37,897	34,609
支払手形及び買掛金	19,265	19,805	14,335
短期借入金	1,918	2,533	4,863
未払法人税等	1,296	2,197	1,159
その他	13,035	13,361	14,252
固定負債	21,182	19,117	19,153
社債	8	8	8
転換社債型新株予約権付社債	10,000	10,000	10,000
長期借入金	1,728	344	415
退職給付引当金	1,407	355	385
役員退職給与引当金	119	429	429
その他	7,918	7,979	7,914
負債合計	56,698	57,015	53,763
(少数株主持分)			
少数株主持分	687	513	478
(資本の部)			
資本金	31,958	31,958	31,958
資本剰余金	32,241	32,241	32,241
利益剰余金	88,766	91,390	90,121
その他有価証券評価差額金	282	224	206
為替換算調整勘定	△309	△389	△426
自己株式	△5,111	△5,120	△5,118
資本合計	147,827	150,304	148,982
負債、少数株主持分及び資本合計	205,214	207,833	203,224

連結損益計算書

単位：百万円

	第58期 第1四半期 (自平成16年4月1日 至平成16年6月30日)	第59期 第1四半期 (自平成17年4月1日 至平成17年6月30日)	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
売上高	56,711	59,656	226,779
売上原価	40,884	42,804	158,583
販売費及び一般管理費	14,573	14,166	60,827
営業利益	1,253	2,686	7,368
営業外収益	1,984	1,648	7,900
営業外費用	1,044	492	2,574
経常利益	2,193	3,841	12,694
特別利益	—	55	1,262
特別損失	186	135	7,081
税金等調整前当期純利益	2,006	3,760	6,875
法人税、住民税及び事業税	1,241	2,178	3,910
法人税等調整額	△43	△617	268
少数株主損失	18	16	231
当期純利益	826	2,215	2,928

- 注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 25,831百万円
2. 1株当たり当期純利益 62円45銭

3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	第58期 第1四半期 (自平成16年4月1日 至平成16年6月30日)	第59期 第1四半期 (自平成17年4月1日 至平成17年6月30日)	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△684	3,801	10,979
税金等調整前当期純利益	2,006	3,760	6,875
減価償却費	1,290	905	5,536
売上債権の増減額(増加:△)	△2,852	△1,946	△1,286
たな卸資産の増減額(増加:△)	△1,571	△2,110	1,492
その他	3,753	4,240	3,925
小計	2,626	4,848	16,545
利息及び配当金の受取額	188	109	792
利息の支払額	△29	△16	△80
法人税等の支払額	△3,470	△1,140	△6,276
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,545	△1,605	△1,276
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,728	△598	△6,349
有価証券及び投資有価証券の取得・売却	△542	△1,773	△400
その他	725	766	5,473
財務活動によるキャッシュ・フロー	△860	△3,273	236
短期借入金の増減額(減少:△)	△326	△2,313	1,922
長期借入による収入	120	—	120
長期借入金の返済による支出	—	△99	△587
自己株式取得による支出	△1	△2	△7
配当金の支払額	△638	△851	△1,384
その他	△14	△6	171
現金及び現金同等物に係る換算差額	△26	△39	55
現金及び現金同等物の増減額	△3,117	△1,116	9,994
現金及び現金同等物の期首残高	41,155	51,150	41,155
現金及び現金同等物の期末残高	38,037	50,033	51,150



貸借対照表(単体)

単位：百万円

第58期 第1四半期
(平成16年6月30日現在)

第59期 第1四半期
(平成17年6月30日現在)

第58期
(平成17年3月31日現在)

(資産の部)			
流動資産	90,326	104,426	98,147
現金及び預金	33,990	35,784	47,646
受取手形及び売掛金	21,755	21,544	15,644
有価証券	3,747	18,115	5,124
商品	8,080	7,708	6,860
繰延税金資産	1,087	1,687	1,493
短期貸付金	10,490	8,573	8,973
未収入金	11,198	11,388	13,425
その他	1,441	1,703	1,022
貸倒引当金	△1,465	△2,080	△2,043
固定資産	113,545	102,290	99,952
有形固定資産	49,239	41,080	41,779
建物	21,028	18,993	19,515
土地	22,852	18,286	18,369
その他	5,358	3,800	3,894
無形固定資産	2,618	3,322	3,427
投資その他の資産	61,686	57,887	54,745
投資有価証券	12,502	11,748	11,421
長期貸付金及び長期差入保証金	37,412	32,768	29,888
繰延税金資産	6,277	5,670	5,557
その他	12,710	11,352	11,496
投資損失引当金	△2,329	△1,109	△1,109
貸倒引当金	△4,887	△2,544	△2,509
資産合計	203,871	206,717	198,099
(負債の部)			
流動負債	33,430	36,454	29,495
買掛金	18,131	18,436	12,793
短期借入金	—	600	—
未払法人税等	1,095	1,872	557
その他	14,202	15,546	16,144
固定負債	19,097	18,264	18,211
転換社債型新株予約権付社債	10,000	10,000	10,000
退職給付引当金	908	—	—
役員退職給与引当金	119	115	115
その他	8,070	8,148	8,095
負債合計	52,527	54,719	47,706
(資本の部)			
資本金	31,958	31,958	31,958
資本剰余金(資本準備金)	32,241	32,241	32,241
利益剰余金(利益準備金+その他の剰余金)	91,942	92,668	91,079
利益準備金	1,296	1,296	1,296
任意積立金	85,981	85,981	85,981
当期末処分利益	4,664	5,389	3,800
その他有価証券評価差額金	282	219	201
自己株式	△5,081	△5,089	△5,087
資本合計	151,343	151,997	150,392
負債及び資本合計	203,871	206,717	198,099

損益計算書(単体)







単位：百万円

	第58期 第1四半期 (自平成16年4月1日 至平成16年6月30日)	第59期 第1四半期 (自平成17年4月1日 至平成17年6月30日)	第58期 (自平成16年4月1日 至平成17年3月31日)
売上高	51,416	51,626	194,195
売上原価	41,702	41,564	154,694
販売費及び一般管理費	7,543	6,351	32,018
営業利益	2,170	3,710	7,482
営業外収益	1,673	989	6,634
営業外費用	451	436	1,511
経常利益	3,391	4,263	12,606
特別利益	—	98	2,205
特別損失	—	287	9,071
税引前当期純利益	3,391	4,074	5,740
法人税、住民税及び事業税	1,041	1,857	3,131
法人税等調整額	257	△318	634
当期純利益	2,092	2,535	1,974
前期繰越利益	2,571	2,854	2,571
中間配当額	—	—	745
当期末処分利益	4,664	5,389	3,800

注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額当期 29,310百万円
2. 一株当り当期純利益 71円45銭

3. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

業態別店舗数

	第58期 第1四半期 (平成16年6月30日現在)	第59期 第1四半期 (平成17年6月30日現在)	第58期 (平成17年3月31日現在)
スーパーオートバックス:	57	61	60
 Type I	6	6	6
 Type II	51	55	54
 オートバックス	417	406	410
 オートハローズ	16	15	16
 オートバックスエクスプレス	4	5	5
 オートバックス走り屋天国セコハン市場	24	26	26
海外(スーパーオートバックス、オートバックス)	12	12	12
合計	530	525	529



株式情報 (2005年3月31日現在)

発行する株式の総数	109,402,300株
発行済株式の総数	37,643,742株
株主数	10,780名
決算日	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日
	利益配当金 3月31日
	中間配当金 9月30日
	なお臨時に必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

1単元の株式の数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞 ただし、決算公告に代えて貸借対照表および損益計算書に係る情報は、 http://www.autobacs.co.jp/ において提供いたします。

上場証券取引所	東京証券取引所、大阪証券取引所、 ロンドン証券取引所
---------	-------------------------------

名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
---------	--------------------------------

名義書換事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
------------	---------------------------------------

郵便物送付先 電話照会先	東京都府中市日鋼町1番10(〒183-8701) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
-----------------	--

住所変更等用紙のご請求	0120-175-417
-------------	--------------

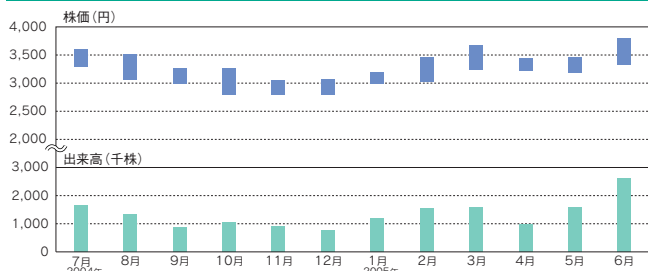
その他のご照会	0120-176-417
---------	--------------

名義書換取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
---------	-----------------------

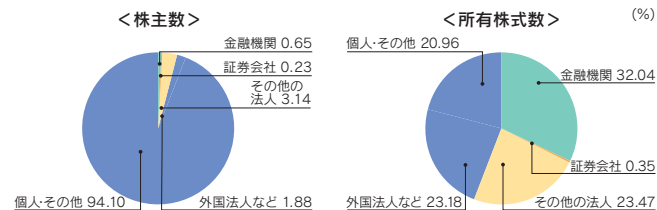
大株主一覧	有限会社スミノホールディングス 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウント アメリカン クライアント 財団法人在宅医療助成勇美記念財団 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4) 住野 正男 ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リュー エス タックス エグゼンプテッドベンション ファンス 住野 公一 資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)
-------	---

- 注) 1. 当社は自己株式2,155千株(所有割合5.73%)を保有していますが、当該自己株式は議決権の行使が制限されているため、上記の大株主から除いています。
 2. 上記以外の名義書換のなされていない株主については、有価証券報告書をご覧ください。

株価推移 (大阪証券取引所)



所有者別状況



住所変更の手続きについて

ご住所を変更された場合、株主名簿の変更手続きをお願い致します。株主招集ご通知や配当金などをお届けできなくなります。

ご変更は、住友信託銀行(株)の電話照会先(フリーダイヤル)までご連絡ください。なお、証券保管振替制度をご利用の株主さまについては、お取引の証券会社で変更手続きを行ってください。

株主優待制度について

『オートボックス』、『スーパーオートボックス』などで、1,000円(消費税込み)のご利用につき1枚お使いいただける株主優待券(300円引)を、3月末日(6月発送)と9月末日(12月発送)の年2回、株主名簿に記載されている株主の皆さまにお送りしています。

ご参考

- 配布枚数(半期毎): 所有株式数 100株~999株 優待券25枚
1,000株~ 優待券50枚
- 優待券は商品券・他の引引(買い物券、クーポン券、値引券等)を併用の場合、値引き後の金額に対してご利用いただけます。
- 優待券は日本国内のオートボックス、スーパーオートボックス、オートボックス走り屋天国セコハン市場、オートボックスエクスプレスおよびオートハロースの全店舗でご利用いただけます。ただし、オートボックス・カース、海外店舗ではご利用いただけません。
- 優待券は燃料、車両、保険、税金、飲食、タバコ、特価商品などにはご利用いただけません。
※車検につきましては、重量税、印紙代、自賠責保険料、リサイクル料にはご利用いただけません。車検基本料、検査手続き代行料、完成検査料、その他整備工賃、部品代にはご利用いただけます。(手続き費用は、一部店舗によって名称が異なります。)



会社情報 (2005年6月30日現在)

商号

株式会社オートバックスセブン (AUTOBACS SEVEN CO., LTD.)

創業

1947年2月

資本金

319億5千8百万円

主な事業内容

当社は、各種自動車用品部品の委託製作、販売、輸出入を主要事業として、小売総合専門店を直営店とフランチャイズ店と並行して全国にチェーン展開しております。

役員一覧

取締役

代表取締役

住野 公一 CEO

取締役 (オフィサー兼務)

野上 明 COO

湧田 節夫 Co-COO
エリアドミナント戦略推進統括

経森 康弘 Co-COO
トータルカーライフ事業戦略推進統括

井手 秀博 財務基盤整備

横井 英昭 人材基盤整備

住野 耕三 海外事業戦略推進兼アジア事業部長

松尾 隆 経営戦略推進兼経営戦略推進室長

取締役

中田 康雄^{*1} (カルビー(株) 代表取締役社長兼 CEO)

宮内 英樹^{*1}

監査役

森野 孝太郎^{*2} 常勤監査役

吉田 治邦^{*2} 常勤監査役

住野 泰士 常勤監査役

田邊 健介^{*2} 監査役

主要な事業所

本社	(東京都江東区)	欧米事業部	(東京都江東区)
北日本エリア事業部	(仙台市泉区)	アジア事業部	(東京都江東区)
北関東エリア事業部	(千葉県市川市)	中国事業部	(東京都江東区)
南関東エリア事業部	(千葉県市川市)		
中部エリア事業部	(名古屋市名東区)		
関西エリア事業部	(大阪府吹田市)		
南日本エリア事業部	(福岡市博多区)		

オフィサー (取締役を除く)

森本 弘徳	エリアドミナント戦略推進兼店舗開発兼業態開発事業兼 エリアドミナント戦略推進室長
武田 健一	トータルカーライフ事業戦略推進兼カー用品事業兼 トータルカーライフ事業戦略推進室長
伊藤 浩明	北日本エリア事業部長
小林喜夫巳	北関東エリア事業部長
角倉 正親	南関東エリア事業部長
戸出 謙	中部エリア事業部長
松村 晃行	関西エリア事業部長
江本 吉弘	南日本エリア事業部長
森本 眞臣	U-PARTS 事業兼 U-PARTS 開発部長兼 カスタムカー開発部長
釜田 尚文	車検整備事業
榎 宏介	C@RS 事業兼 C@RS 事業推進部長
深山 義郎	新規事業
志野 修市	中国事業兼中国事業部長
小平 智志	戦略推進基盤整備兼システム基盤整備

*1 商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役

*2 「株式会社」の監査等に関する商法の特例に関する法律第18条第1項に定める社外監査役

オートバックスグループ ホームページのご紹介



お客さまや株主の皆さまにオートバックスグループへの理解を深めていただけるよう、充実したホームページを公開しています。ポータルサイトは二つ。弊社の企業情報サイトと、商品・サービスや店舗についてご案内する『オートバックス ドット コム』です。是非ご利用ください。

<http://www.autobacs.co.jp/> 株式会社オートバックスセブン

オートバックスセブンの企業情報サイトです。沿革、経営戦略など基礎的な情報を掲載した会社案内、ニュースリリース、IR情報などが閲覧いただけます。



<http://www.autobacs.co.jp/seven/ir/> 株式会社オートバックスセブン IR情報

IR情報のページです。IR資料や株価情報、株主情報などを掲載しています。過去のIR刊行物もご覧いただけます。



財務ハイライト

IR資料

月次情報、決算短信、
有価証券報告書、アニュアル
レポート、ファクトブック
株主通信、決算説明会資料

株価情報

株主情報
優待制度、株主メモ、公告

IRに関するFAQ

資料請求

<http://www.autobacs.com/> 『オートバックス ドット コム』

オートバックスグループの、お客さま向けポータルサイトです。お客さまのカーライフに役立つ車の基礎知識をはじめ、お得なセールやキャンペーンなどの情報が満載です。さらに店舗検索、インターネットでのショッピングなど、便利なサービスも提供しています。

主な業態のホームページ

<http://www.superautobacs.com/> 「スーパーオートバックス」

エンターテインメントカーライフメガストア「スーパーオートバックス」のホームページは、豊富な商品・サービス、最新のイベント案内など、魅力がいっぱいの充実した内容です。

<http://www.autobacs.com/secohan/> 「オートバックス走り屋天国セコハン市場」

中古カー用品のデパート「オートバックス走り屋天国セコハン市場」のホームページには、各店舗の掘り出し物など、お買い得情報がぎっしりと詰まっています。



IR情報に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。

経営戦略推進室 IR・インフォグループ

電話
03-6219-8718

ファックス
03-6219-8769

e-mail
investors@autobacs.com



植物性インクを使用し、古紙配合率100%の再生紙に、水なし印刷をしています。

AUTOBACS SEVEN CO., LTD.

株式会社 オートバックスセブン 東京都江東区豊洲5-6-52 ISTビル 〒135-8717